

第2回徳島市民病院経営健全化推進会議議事録

日時 平成29年10月30日（月）午後3時～

場所 徳島市民病院医局カンファレンスルーム

出席者 15人（委員11人、事務局ほか）

傍聴人 0人

- 1 開会
- 2 議事

(1) 徳島市民病院経営強化プラン改定案の修正について					
事務局	<p>「徳島市民病院経営強化プラン改定案の修正について」説明</p> <p>【前回会議での意見に対する回答】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">前回会議での意見</td> <td style="padding: 2px;">会計時の待機時間について、クレジットシステムを応用することで、時間短縮を図ることはできないのか。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">回答</td> <td style="padding: 2px;">会計時の待機時間については、アンケートやご意見箱でも頻繁に指摘されているところである。ただし、医療費に関しては、会計時にその場で費用明細について問われるケースが多いため、後日の口座引落ではかえって不満が発生することが予想される。今回のプランでは具体策は記載していないが、他の面で待機時間短縮に努めたい。</td> </tr> </table>	前回会議での意見	会計時の待機時間について、クレジットシステムを応用することで、時間短縮を図ることはできないのか。	回答	会計時の待機時間については、アンケートやご意見箱でも頻繁に指摘されているところである。ただし、医療費に関しては、会計時にその場で費用明細について問われるケースが多いため、後日の口座引落ではかえって不満が発生することが予想される。今回のプランでは具体策は記載していないが、他の面で待機時間短縮に努めたい。
前回会議での意見	会計時の待機時間について、クレジットシステムを応用することで、時間短縮を図ることはできないのか。				
回答	会計時の待機時間については、アンケートやご意見箱でも頻繁に指摘されているところである。ただし、医療費に関しては、会計時にその場で費用明細について問われるケースが多いため、後日の口座引落ではかえって不満が発生することが予想される。今回のプランでは具体策は記載していないが、他の面で待機時間短縮に努めたい。				
委員	<p>会計時の明細説明などの事情で難しいことは理解した。患者側としては、可能な範囲で対策を進めてほしい。</p> <p>【前回会議での意見に対する回答】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">前回会議での意見</td> <td style="padding: 2px;">新たな取り組みのほか、人件費の抑制も掲げているが、両方で矛盾が生じるのではないか。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">回答</td> <td style="padding: 2px;">人件費の抑制については、当院が抱える大きな問題であり、避けては通れないものだと考えている。効率的な人員配置及び業務分担によって対応していきたい。</td> </tr> </table>	前回会議での意見	新たな取り組みのほか、人件費の抑制も掲げているが、両方で矛盾が生じるのではないか。	回答	人件費の抑制については、当院が抱える大きな問題であり、避けては通れないものだと考えている。効率的な人員配置及び業務分担によって対応していきたい。
前回会議での意見	新たな取り組みのほか、人件費の抑制も掲げているが、両方で矛盾が生じるのではないか。				
回答	人件費の抑制については、当院が抱える大きな問題であり、避けては通れないものだと考えている。効率的な人員配置及び業務分担によって対応していきたい。				
委員	<p>非常に困難な問題だと思う。今回のプランをどうこう言う訳ではないが、新たな取り組みを進める際には、人件費や人員配置について考慮す</p>				

<p>三宅委員</p>	<p>べきと思う。人事院勧告による給与引上や診療報酬のマイナス改定を控えるなかで、適切な予算執行を考えてほしい。</p> <p>人件費については、公立病院にとっては大きな課題である。公務員の給与制度上、すぐに抑制策を講じることは難しい。職員一同、人件費を上回る収益を上げるよう努力するとともに、人件費の適正化を進めていきたい。</p>
<p>(2) 収支計画案について</p>	
<p>事務局</p>	<p>「収支計画案について」説明</p>
<p>委員</p>	<p>H27年度・H28年度決算実績及びH29年度決算見込について、前回プランと比較してどうだったか。また、H29年度決算見込の純損益▲91百万円に対して、H30年度収支計画は純損益20百万円に黒字転換することだが、この増益要因はなにか。</p>
<p>事務局</p>	<p>H27年度は前回プランの純損益114百万円に対して、決算実績は純損益184百万円（前回プラン比+70百万円）。同様に、H28年度は367百万円に対して、55百万円（前回プラン比▲312百万円）。H29年度は507百万円に対して、▲91百万円の見込み（前回プラン比▲598百万円）。</p> <p>なお、収支計画については、財政当局との協議により見直す可能性がある。また、H30年度における黒字転換は、緩和ケア病棟の病床利用率及び紹介率の向上による増益を見込んでいる。</p>
<p>三宅委員</p>	<p>H29年度決算は▲91百万円の赤字見込みであるが、下期で挽回できるよう職員一同に尽力している。H30年度の増益については、緩和病棟のほか、診療報酬の各種加算の見込みもある。不採算医療との兼ね合いもあるが、それを上回る収益をあげられるよう努めていく。</p>
<p>委員</p>	<p>市民病院におけるジェネリック医薬品の採用率はどの程度なのか。また、材料費の中には薬品費も含まれているのか、新型抗がん剤が価格急騰しているなかで将来的な見通しはどう考えているか。</p>
<p>三宅委員</p>	<p>当院の採用薬品のうち、70 - 80%はジェネリック医薬品である。材料費の中には薬品費も含んでおり、薬品費の約半分を抗がん剤が占めている。</p>

事務局	薬品費については、増加していくことが予想されるが、積極交渉や共同購入により、費用の抑制に努めていく。
委員	収支計画において、収入面は実績ベースでは 10,200 百万円程度で推移しているのに対して、計画ベースでは毎年 200 - 300 百万円増収して推移しているが、どのような根拠によるのか。
事務局	収入と病床利用率は連動しており、病床利用率の目標値を根拠として、収入を算出している。一般的に、病床利用率が 1 % 増加すれば、収入が 100 百万円増加するとされる。
(3) その他	
三宅委員	病院全体でできることは全てやっぺいこうという意識でいる。主な取り組みとしては、これまで在院日数の短縮に努めていたが、副作用で病床利用率が頭打ちになっていたため、在院日数の見直しを図ること。また、救急指定病院として、できる限り救急患者を断らないこと。さらに、がんセンターによるトータルケアのような特色ある医療を提供すること。徳島県全体で患者が減っているなかで、市民病院の役割を明確にしていかなければならないと考えている。

3 次回の開催予定について

4 閉会

以 上